

第4学年 社会科学習指導案

授業日

指導者

1 単元名 自然災害にそなえるまちづくり

2 単元目標

- ・ 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 (知識・技能)
- ・ 自然災害から地域の安全を守るための取組の意味を考え、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 (思考力・判断力・表現力)
- ・ 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、自然災害の減少と国民生活との関わりを取り上げる。我が国は世界的に見ても自然災害の多発地域である。我が国の自然災害や防災対策の現状について調べることにより、自然災害による被害を防ぐために国や地方公共団体が様々な対策や事業を進めていることを捉えることのできる教材である。また、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気付かせるとともに、自然災害による被害を防ぐために、自分たちがどのようなことを考え、どのように行動すべきなのかを考えさせることができる単元である。

(2) 児童観

本学級の児童は、一学期に自分たちの生活に関わるごみ処理施設や水道施設について学習した。その中で、自分の生活と照らし合わせながら学習課題に取り組むことができた。しかし、普段の生活の中で関わることの少ない施設の業務やそこに携わる人々の考えや気持ちを想像することはまだ難しかった。

(3) 指導観

第一次では、導入として地震や津波の写真や動画から気付いたこと、疑問に思ったことを基に、単元を通しての課題を見つけさせる。第二次では、公共機関や公共施設で地震や津波に対してどのような備えや取組をしているのかを学習する。第三次では、本単元のまとめとしてわたしたちの地域では地震に対してどのような備えをしているのか振り返るとともに、わたしたちができることを考える。このことを通して、地震や津波への備えを身近に感じ、児童自ら防災に意識をもてるようにしたい。また、自分の行動だけでは防災が成り立たず、公助、共助と連携することで防災が成り立つことに気付かせたい。

4 本時の目標 (わかる学力) (第9時/全9時間)

- ・わたしたちの地域の地震や津波に対する取組や備えを振り返り、わたしたちができる防災について自分の考えをまとめることができる。

5 評価

A:地震や津波に対して自分ができる取組や備えについて考える。また、関係機関に対して自分が協力できることや関係機関と連携した防災について考え、まとめることができる。

B:地震や津波に対して自分ができる取組や備えについて考え、まとめることができる。

学習活動

○教師の発問 ・予想される児童の反応例

1 導入問題

地震や津波にそなえて、わたしたちができる取組を考えよう。

2 個別探究Ⅰ

・わたしたちができる取組をムーブノートに書き、提出して学級全体で共有する。

《予想される児童の考え方》

- ・地震が起きたときにどう避難するか計画を立てる。
- ・家族で連絡方法と集合場所を決めておく。
- ・ハザードマップを確認する ・食料や飲料水を備蓄する
- ・防災バッグを準備する ・地域の避難場所を確認する
- ・地域の防災訓練に参加する ・家具を固定する
- ・地域の人とあいさつをしてコミュニケーションを深める

3 協同探究

- ・他の児童の発表を見聞きして、自分の考えと比較し、質問したり、参考となる考えに共感したりする。
- ・自分たちだけで取り組むのではなく、国や県、市や地域の方と連携・協力することの大切さに気付く。

《関連づけ発問》

○黒板全体やグループ内（県や市、地域、家庭）を見て、似ている取組や違った取組はありませんか。

（共通）・物の備蓄 ・訓練の実施 ・事前協議と見直し

（相違）・備蓄量 ・訓練内容 ・話し合う人

○県や市、地域とつながる自分たちの取組ってどんなことが考えられるかな。

- ・施設や設備の確認 ・食料や飲料などの備蓄と使用方法

《追究型発問》

○地震や津波に対して、国や県、市や地域、そして自分たちは、なぜこのような取組や備えをするのかな。

- ・一人一人の命を守るため ・災害による被害を減らすため

○自分たちだけの取組や備えだけあればいいのかな。

- ・自分たちだけでは駄目 ・みんなで協力することが大切

○4年生の皆さんはどんな協力ができるのかな。

- ・毎日あいさつをする ・勝手な行動はしない

4 展開問題（個別探究Ⅱ）

野口北小学校の地域を災害に強い町にするにはどうすればいいだろう。

- ・わたしたちができることとその理由を説明する。

【導入問題のよさ】

- ・今まで学習してきた国や県、市や地域の取組を振り返ることで、わたしたちができる取組について考えやすくなる。

【協同探究の進め方・工夫】

- ・ムーブノートを使用し、学級全体で意見を共有する。
- ・既習事項や調べたことから児童が考えられるよう、これまでのノートや掲示物を振り返えらせる。
- ・わたしたちができる備えを短冊に表し、大まかなグループ分けをすることで、国や県、市や地域との連携と協力が必要であることに気付かせる。
- ・多くの備えをしておくことが重要であり、自らも防災について考え行動していく大切さに気付かせる。

【本時の本質】

- ・3つの立場（公助・共助・自助）から自然災害の備えを行っており、自分ができることや協力できることを考え、地域の一員として防災への意識を高める。

【展開問題のよさ】

- ・地域の一員として自分や家族、地域住民ができること考えさせる。（公助・共助）
- ・学校生活において自分ができることも考えさせ、いざという時に備えさせる。